

■日 時 令和7年9月2日（火）午後2時～午後3時50分

■場 所 ホテルプラザ菜の花 4階「羽衣」

■出席者 委 員：柳澤要、林立也、指田朝久、磯野綾

事務局：総務部資産経営課 齋藤課長、増田副課長、岩崎副課長、藤班長、
大作副主幹、山本副主査

株式会社日建設計（基本構想・基本計画策定支援業務受託者）

○座長の選任

柳澤委員を座長に推薦する意見があり、全会一致で了承された。

○議題説明

事務局より、議題資料の説明が行われた。

○議題に対する意見及び質疑応答

【議題（1）、（2）】

- ・柳澤座長 本庁舎は新耐震であるが、それ以外の棟は旧耐震の建物であり、特に中庁舎と南庁舎別館については早急な耐震性の向上が求められる。本庁舎は築年数がそれほど経っていないことから大規模改修をして継続利用という方針となっているが、本庁舎を残して建て替える場合、敷地が限定されていること、容積率を使い切っていること、5棟が分散配置されていることから建替えが困難になることが想定され、また、新棟との連携が取りづらいことも懸念される。建替えのローリング計画や、工事期間中の行政サービス、完成後の一体運用なども課題と考える。各棟のライフサイクルコストの試算において建替え時の仮設庁舎の費用を含んでいるか。
- ・事務局 各案ともに仮設庁舎を含めて比較している。
- ・柳澤座長 南庁舎と議会棟を建替えない可能性はあるか。
- ・事務局 南庁舎は今後の検討では残すことも検討している。議会棟は躯体も劣化し、築年数も経っているため、建替えを想定している。
- ・柳澤座長 南庁舎別館跡地に新庁舎を建設すれば仮設庁舎は不要な可能性がある。配置についてその他意見を伺いたい。
- ・林委員 各棟の基本的な方針を踏まえて、具体的なローリング計画、段階的に必要となる移転費や中庁舎などの解体時の機能移転ための面積確保などを含め、仮設計画を検討する必要があると考える。
- ・柳澤座長 一回で移転するのか、段階的に整備するのかなども含めた具体的な配置計画シミュレーションが必要と考える。直近の整備計画だけでなく、30～40年後を見据えたロングスパンでの段階整備も検討していく必要があるだろう。PFIの活用なども含めた整備費用、整備手法の比較も重要と考える。
- ・磯野委員 検討資料4ページ「その他」欄に記載されている「セキュリティが不十分」、「都市景観への配慮」は6ページの比較表でどのように評価されているか。

- ・**事務局** 6ページの比較表において、セキュリティは「日常的な機能確保」における「利便性の向上」に包括して評価している。「将来を見据えた対応」における「庁舎配置の課題」は、配置だけでなく外観なども含めたものであり、ここで都市景観も包含して評価している。
- ・**磯野委員** 南庁舎が残る場合、景観上の統一性を図ることが難しいのではないかと。シンボルとして残すなら良いかもしれないが、南庁舎は道路に面していることに加え、千葉市景観計画ではモノレールからの景観が重要視されている中、県庁の敷地内だけでなく周辺都市景観を含めて考える必要があるように感じた。
- ・**柳澤座長** 一部建物を残す場合は景観上の統一感を出すことが難しく、セキュリティ面の確保からも、新築の方が対応しやすい可能性はある。また、建物が高層か低層かも検討事項ではないか。
- ・**林委員** 川沿いの景観を考慮した環境形成も魅力的なものにできたら良いと考えているが、敷地も限られているため、空間活用などを考えるのであれば建物を高層化することが望ましいのではないかと。ただ、今回意見を述べるにあたって本敷地における主風向までは把握できておらず具体的な指摘はできないが、ビル風の検討等は必要と考える。
- ・**柳澤座長** 羽衣公園が活用できるのであれば、公園敷地に庁舎を建てて河川側を開放することも考えられる。さらに、モノレールからのアクセスが良い方が利便性は高い。
- ・**指田委員** 既存建物を残すのであれば、浸水は留意すべき課題と考える。また、災害時の機能継続（BCP）の観点も重要視しなければならない。本庁舎はBCPを考慮して建てられたとのことだが、例えば夏季に地震が発生した場合に空調設備がどの程度機能継続できるかまでは確認できていない。県庁舎は災害対策機能が必要であり、機能継続に不安があるのであれば建替えも検討すべき。首都直下型地震へ対応できる県庁舎が求められる。
- ・**柳澤座長** 浸水を考慮すると、川から離れた南側に庁舎がある方が安全か。
- ・**指田委員** 離れていた方がよく、特に機械室を地下フロアに設ける場合、浸水のリスクが高まり危険である。
- ・**柳澤座長** 災害時に人が集まれるような広場のスペースは、どのような形状が望ましいか。
- ・**指田委員** 県庁舎が避難場所として指定されるかなどの方向性によるが、災害対応で自衛隊や消防等が利用するスペースとしては、正形の方が使用しやすいであろう。
- ・**柳澤座長** 本庁舎は大規模改修を行っても40年後にはいずれ建替えが必要であり、本庁舎以外の新棟のライフサイクルの80年周期とタイミングが40年ずれるのであれば、最初にずれを解消してしまうことも検討するのが良いのではないかと。ライフサイクルコストの図が80年間とあるが、もうワンサイクル延ばして考えてもよいのではないかと。

【議題（3）】

- ・**柳澤座長** 日常、非日常、将来の3つの視点と6つのあるべき姿については、追加すべき点があるか。そもそも、県庁舎ではどの程度多様な働き方をされているか。市庁舎などは、市民との関わりの有無によりフロントとバックがはっきり分かれておりセキュリティの考え方にも反映しやすいが、県庁舎はフロントとバックなどの考え方はあるのか。ユニバーサルデザインやジェンダーレスなどについても県民にどう姿勢を見せるのかも重要。災害時対応スペースの日常と非日常の使い分けなども検討事項となるであろう。
- ・**林委員** 千葉県地球温暖化対策実行計画でも目標が掲げられているが、おそらくZEB Readyが

目標とするラインではないか。高層ビルで Nearly ZEB を目指そうとすると、再生可能エネルギーの導入のハードルが高い。経済性とのバランスに加え、昨今のエネルギー需給状況がひっ迫していることも踏まえた検討が必要と考える。

- **柳澤座長** 千葉県庁舎は当初の計画では木質化を図っていたが、検討が進む中でコストを考慮し途中で取りやめとなった。建設コストが高騰する中、木質化ありきで検討を進めることは注意が必要と考える。
- **林委員** 千葉県は県産材の供給が安定していないと聞いている。
- **指田委員** 災害への強靱化は重要だが、県庁舎が被災した場合にどうするのかという BCP の観点も重要である。災害時に千葉県は印旛合同庁舎などと連携すると聞いているが、県庁舎の耐震化または免震化は必須である。非常用発電の継続運転時間は最低 72 時間となっているが、燃料の備蓄が 1 週間分程度は必要ではないか。2019 年の房総半島台風災害では、燃料補給が大変困難であった。さらに、建物自体で必要になる電源容量が増えてきている中で、災害時に賄う対象とする電源容量の設定が重要である。酷暑の中での停電が起きた場合を考え、空調分も考慮すべきである。また、災害時に設置される災害対策本部は、エレベーター停止の危険性等を考慮し建物の低層階に設けることが適切である。災害対策で一時的に必要なスペースは通常時は会議室として利用しながら、災害時には応援スペースの拠点となり、住民の受け入れ場所とすることもでき、将来的に県庁舎が縮小した際にはオフィスとして外部に貸し出すなど、これまでのセキュリティラインの設定とは考え方が変わってくると思われる。さらに、これまでは 1 週間分が推奨されてきた物資の備蓄についても、富士山噴火を想定した「首都圏における広域降灰対策ガイドライン」では 2 週間分とも言われており、物資保管スペースの十分な確保が必要となる。備蓄スペースが増加していく中で、民間企業では各職員が 1 人 1 日分を自席に保管し、備蓄スペースの削減対策を行っている事例がある。
- **柳澤座長** 議会棟は別棟も考えられるが、議会機能と行政機能を一体棟として議会機能を最上階に設けることはいかがか。
- **指田委員** シンボリックに最上階にあるのは良いが、最上階はエレベーターのセキュリティを分ける必要があり、有事の際にエレベーターが停止し上層階へのアクセスには困難が伴うので、低層階に設置することが望ましいと考える。
- **柳澤座長** 有事のことを重視するのであれば議会機能や災害対策機能は低層部が良いが、浸水の危険性についても考慮し、ハザードマップを参考とした検討が必要ということで理解した。
- **磯野委員** 方針 6 「県行政のシンボルとなる庁舎」について、県庁舎をどこからどう見せたいのかという観点で検討が必要と考える。また、現状フェンスで囲われていて一体とは言い難い都川との関係も整理が必要である。物理的に庁舎が水辺に近づいたり、川側に公園を設けるのであれば公園と水辺の親水空間を設けたり、物理的に接していなくても視覚的に水辺と広場の調和を図る、ということも考えられる。庁舎が見られるというだけでなく、庁舎を視点としてまちがどう見えるかも重要。市役所の場合、広場を市民に開放することはよくあるが、県庁舎の場合、県民による機能の使われ方によってそもそもそのような空間が必要なのかも含めて、考え方を考える必要がある。
- **柳澤座長** 県民協働スペースやカフェなどの地域に開放された場があると、新しい県庁舎としてシンボルになるのではないか。開かれた施設のイメージを理念の中で打ち出してもよいように思う。

- ・ **林委員** 方向性1「機能的な庁舎」で働きやすい執務環境に触れているので、現状の執務環境への課題意識を感じているように思った。職員目線の課題抽出も重要だが、人材確保の観点などの大きな課題を見据え、従来の働き方の振り返り、どのように働き方を変えていくのか、その働き方にふさわしい場を考えていく、というプロセスを通して働く場の改革を行うのが良いと考える。
- ・ **柳澤座長** 企業や大学は多様な働き方を取り入れているが、役所関連は導入が遅れていると感じる。他市での取り組みなどを参考に、若手職員でWGを作り、新しいアイデアを募集したほうが良いのではないかと考える。
- ・ **林委員** 若手だけでやると意見が残らないこともあるので、上席も積極的に巻き込んでいくのが良い。整備方針が見えてからでは間に合わないため、同時並行で検討を進めてほしい。文書量の削減のためのデジタル化推進、働き方改革などは当然行われることを前提とするものの、やはりトップの旗振りが必要である。
- ・ **柳澤座長** 議会なども、議会が開かれていないときの使われ方についても考えたほうがよいのではないかと考える。議会のあり方自体に変革を促していく仕組みが必要と考える。
- ・ **磯野委員** 方向性4「経済性・可変性に優れた庁舎」にて考慮されていくとの認識。可変性についても現状を踏まえたショートスパンと、50年後などの将来を見据えたロングスパンでの考え方が必要だと思ふ。
- ・ **林委員** 使用したい面積が足りないときには外部で借り、余剰がある場合は外部に貸し出すなど、柔軟に対応できることが望ましい。エネルギーに関しては、日常の環境性能と非常時の環境性能のバランスを考慮することが重要であり、地域全体でのエネルギー共有も検討できるのではと考える。
- ・ **柳澤座長** 県庁舎として地域熱供給など、エリア全体のエネルギーとして連携できると望ましい。

【全体】

- ・ **指田委員** 本庁舎のみを大規模改修とすると、本庁舎と他の棟との建替えサイクルがずれていくため、全体で建替え時期を揃えた方が良いのかも含めたローリング計画の策定が重要と考える。また、情報は一度漏洩すると後戻りができないため、セキュリティは重要な事項と考える。方向性についてDXを独立項目として入れることも考えられるのではないかと考える。22世紀に何を残すのかを考えいかなければいけない。
- ・ **柳澤座長** 配置については複数の考え方があるため、検証を進めてもらえればと思う。

○次回の検討会議について

令和7年11月中旬に開催予定。

以上